

木津川市立図書館協議会 会議経過要旨

会 議 名	令和7年度第3回木津川市立図書館協議会		
日 時	令和8年2月27日(金) 午後2時～午後3時30分	場 所	木津川市立中央図書館 2階 視聴覚室
出 席 者	委 員	■米田 崇会長 ■下浦悦子副会長 ■池田加津子委員 ■福森真知委員 ■中村景子委員 ■橋本京子委員 ■杉本秀子委員 ■河合正俊委員 ■田中啓之委員	
	事 務 局	久保図書館長、神田中央図書館係長、西山中央図書館担当係長 中川山城図書館担当係長	
傍 聴 者	0名		
議 題	① 三重県亀山市立図書館管外視察研修について(報告)【資料1】 ② 令和8年度図書館運営について ・令和8年度予算について 【資料2】 ・令和8年度図書館開館日について 【資料3】 ・令和8年度各種事業について 【資料4】 ・雑誌スポンサー制度について 【資料5】 ・山城図書館休館について 【資料6】 ③ その他 ・次回の協議会について		
会議結果要旨	1 開会 開会宣言 委員9名全員の出席により、会議が成立していることを確認した。 2 会長挨拶 米田会長から挨拶があった。 3 報告 亀山市立図書館管外視察研修について 事務局から資料1により報告した。 4 議題 米田会長が議長となり、議事を進行した。 令和8年度図書館運営について ・令和8年度予算について 事務局から資料2により説明した。 ・令和8年度図書館開館日について 事務局から資料3により説明した。 ・令和8年度各種事業について 事務局から資料4により説明した。 ・雑誌スポンサー制度について 事務局から資料5により説明した。 ・山城図書館休館について 事務局から資料6により説明した。		

	<p>・ 次回の協議会について 事務局から7月31日（金）の午後での開会を提案した。 開催日は了解を得た。</p> <p>5 副会長あいさつ 下浦副会長から閉会のあいさつがあった。</p> <p>6 閉会</p>
<p>会議経過要旨</p> <p>◎：会長 ○：委員 ⇒：館長 →：事務局</p>	<p>1 開会 会議結果要旨のとおり。</p> <p>2 会長挨拶 会議結果要旨のとおり。</p> <p>3 報告 三重県亀山市立図書館管外視察研修について 【資料】 資料1</p> <p>【主な質疑・応答、意見】</p> <p>○：亀山市立図書館は素晴らしい図書館で、研修に行ってよかった。 立地状況を活かしてたくさんの方が利用できる施設になっており、予約席なども十分に完備されていて、また、飲み物が飲める席もあった。 利用者の視点に立った図書館の設備を備え、運営をされていることが分かり、木津川市にもこんな図書館を建ててもらいたいと思った。</p> <p>○：立地条件も良く、図書館が行政の中で高い位置に組織化されており、メインになっていると感じた。 行政によって運営方法は違うと思うし、木津川市は木津川市の狙いがあるかと思うが、亀山市のような図書館の在り方も大事ではないかと思う。 亀山市立図書館は司書の数が少なく、業務の大半が業者委託されていた。 予算の関係もあると思うが、亀山市立図書館は職員が力を持っているように感じた。 亀山市では新しい図書館を建設する段階から若い職員の方が関わっており、現在に至っていることから、行政とのつながりにおいて大きな役割を果たしてきたことが感じ取れた。 今後木津川市においても、館長をはじめ、仕事をしている職員の方々にも力量を大いに発揮していただきたいと思う。 また、亀山市立図書館は図書館独自の発信をされていると感じた。 というのも、図書館の行事だけではなく、行政の行事の中にも図書館が関わっており、そういう図書館の発信の仕方もあるのではないかと感じた。</p> <p>◎：先日沖縄に行ってきたのだが、旅行に行くときにやはりガイドブックは必要だと思う。 本屋にガイドブックを買いに行ったのだが、値段が1,300円もした。 これは高いと感じ、図書館に行けば置いてあると思って図書館にガイドブックを借りに行った。</p>

私みたいな方法で図書館を利用されている方もきっとたくさんいるのかなとその時感じた。

亀山市立図書館に行ったときに、本当に立派な図書館で、いろんな方が関わって、いろんな方が参加されて、1年中いろんな行事が行われている。

それは立派なことだが、心配になったのは図書館の本来の目的は「この本があるかな」、「いい本あるかな」と思って図書館に行く方々のための仕事である。

職員の皆さんにお聞きしたいのだが、演奏会とか、図書館にとってはおよそ関係のないものが亀山市立図書館のイベントにはたくさん入っていた。

あんなに立派になって行政も関わって、「図書館！図書館！」と言われたときに運営なさっている方がどうなるかな、という感じがした。

あんまり図書館だからといって「あれも、これも」となってくると、「何かしなくちゃいけない」という強迫観念みたいになって、本来の図書館のいい本を探しにきて、並べて見やすい展示にしようとか、そういう業務がしんどくなってこないかと心配になった。

そのあたりはどうなのか。

○：図書館に来てもらうことがまず第一歩だと私は思っている。

確かに自分の必要に応じて図書館に出かけるのはいいが、そういう欲求を持っておられない方、ちょっとでも目を向けてもらうことが大事ではないかなと思う。

だから連携ということ亀山市立図書館から学ばせてもらった。

わたくしごとだが、亀山市に孫が住んでいる。

ひ孫はまだ赤ちゃんだが、図書館を利用させてもらっているという話を聞いた。

どんな方でも図書館に行こうかなという思いを持ってもらうことが、まず最初の一步かなという思いで、孫の話を聞いていた。

孫は亀山市立図書館の近くに住んでおり、亀山市立図書館はすごく行きやすいのと、いろんな本があるのと、「出かけようかな」と思う何かがあると聞いた。

→：今回、亀山市立図書館に行かせていただいて、市の正職員の方が4名で、それ以外の方はTRCに業務委託をして、窓口業務に19名の方に来ていただいているという形だったと思う。

「駅前」という立地上、とにかく時間つぶしでもなんでもいいから来ていただけるように、という形で運営されている。

その中で、いろんなイベントも開催して、「図書館」というところにどんなきっかけでもいいから来ていただけるようにという、おそらく図書館の職員なり市の考え方があったのかなと感じている。

その一方、会長のおっしゃられているように「こんなイベントもやらないとならない」という形で、もっとやらないというふうに、亀山市立図書館の佐々木氏に説明していただいた中で、これだけのイベントを開催しているのに、「もっと開催しないといけない、もっと頑張らなくてはならない」という説明を受けた。

そのあたりのバランス感は難しいのかなと思っているのだが、どちらにしても、木津川市の図書館に来館されるのは小さいお子さんか大人の方が、という形で、なかなか高校生や大学生や、そういった年代の方に来ていただけていないというのが現状である。

亀山市立図書館は駅前立地という関係から、時間つぶしでもなんでもいいから来ていただけるように、「なんらかのきっかけ作り」というコ

ンセプトから始まったと思う。
ただ、木津川市の図書館は条件が違うので、同じことはできない。
ただ、いずれにしても、事務局の方で何でもかんでもするのは違うと思う
確かにイベントは大いに開催していきたいなど、後からも説明させてもらうのだが、各館の方で工夫を凝らして色々な事業を開催していきたいと考えている。
ただ、亀山市立図書館みたいに演奏会などを開催するのは、なかなか厳しいのかなと思っている。
そのあたりのバランス感を持ちながら、われわれ職員に負担がかからない範囲でイベント等は開催して、図書館運営をしていきたいというのが本音である。

- ◎：イベントを実施すると、準備から、当日の運営から後片付けまで、大変だと思う。
本当に必要なものはどんどんやってほしいのだが、これもしようか、あれもしようかという感じでやっていくと、本来の業務が滞ってしまうのではないかという心配があったので、先ほどの話をさせてもらった。
- ：主催されて図書館が関わらせていただけるものがあれば一緒に、名前だけでもいいから、イベントの主催をしなくても重ねていく方法はないかという思いもある。
- ：私も同じ意見で、図書館は社会教育の大きな柱だと思う。
だから管轄は社会教育課というところがベースだと思うので、社会教育として生涯学習を推進していくところだと思うので、そういうところとしっかり連携して、木津川市民のみなさんのニーズに応えられるような文化発信というか、そういうものを作っていけたらいいなと思っている。
- ：社会教育と学校の本来の教育、これらの管轄は教育委員会だが、その枠をちょっとでもいいから出てみてはどうか、という提案である。
- ：せっかくこういった会議室とか、スペースがあるのだから、こういったスペースを利用していただいてもいいのではないかというご意見だと理解している。
- ：そのとおりである。
- ：例えば、税務課とは税のポスター展も一緒にしており、危機管理課とは防災関係の小学生の書いた物の展示もしていた。
高齢介護課とは9月くらいにアルツハイマー週間があって、その時に本を展示させてもらって、市役所にも本を持って行って見てもらうということはしている。
- ：そのあたりを増やしてもらえればと思う。
例えば、高齢介護課の展示もあったら、例えばそれぞれの地域のケアマネや介護士や、そういう方との連携も含めて、というようなものも視点に入れたらいいのかなと感じている。
税のポスター展の時も、学校の方には展示するというお知らせは入っているのか。
- ：連絡は入っており、恐らく受賞者の家族等が見に来られていると思う。
- ⇒：木津川市のLINEの「図書館のお知らせ」というところでイベントの案内とか、今年に入ってから少しずつ情報発信をしていって、参加いただけるような形で情報発信を進めている。
今後もいろんな形で情報発信・連携につなげていけたらなと考えてい

る。

→：今年の1月から発信を始めている。

◎：他にご意見はないか。

○：京都新聞の2月11日号に、図書館関連の記事で「みんなの本棚」というものが掲載されていた。

京都市内の図書館だったと思う。

それから、『大ピンチずかん』という本があるのだが、私自身非常に気に入っている。

山城図書館で3冊シリーズを借りたのだが、例えば、大人の絵本コーナーはあるのか。

→：そんなに広くはないが、大人の方も楽しんでいただける絵本の棚はある。

○：そういう大人も楽しめるような絵本コーナーがあると、私たち年寄りには行きやすいと思う。『大ピンチずかん』はすごく今人気らしく、なかなか予約の順番が回ってこなかったが、なかなか面白かったし、大人にとっても、亀山市立図書館の話とはちょっとずれてくるが、そういうコーナーも設置していただくと有難い。

木津川市内の他の図書館はどうされているかわからないが。

→：3館とも大人も楽しめる絵本はヤングアダルトのコーナーにあるのだが、やっぱり絵本は絵本を置いているコーナーに置かないと貸出が出にくい感じである。

別のになると、ちょっと暗い、大人な感じの絵本になってきて、子どもの本が置いてあるところに置くのは変な感じだし、ちょっと宙ぶらりの形になっているので、逆にそれを上手に使うって違うアピールの仕方で見せていくのもありかもと思うが。

正直なところ線引きが難しい。

○：私は年寄りの意見である。

→：今おっしゃられている『大ピンチずかん』は完全に子ども、という用語弊があるが、想定されているメインの読者が子ども主体のもので、それを大人の本の棚に置いてみたりすると、子どもの手に届かないということもあるし、なかなか難しい。

○：図書館司書の思いもあるだろうし、運営の思いもあるだろうが、私は『大ピンチずかん』がすごく気に入っており、もう1回借りようかなと思っているくらいなので、他にも楽しめそうな、そういう絵本があれば、そういう絵本のコーナーも作っていただけると有難い。

→：逆に特集としてコーナーを作ることはできる。

絵本大賞を取っているような本のことを指されていると思うので、そのような絵本を集めて、展示する、いろんな方に見てもらおうということができると思う。

今後検討する。

⇒：話が変わるが、2月7日の京都新聞の夕刊で、木津川市立図書館の自習席の案内が掲載されているので、またみなさん時間がある時にでも、一度見ていただいたら思う。

4 議題

令和8年度予算について

【資料】 資料2

令和8年度図書館開館日について

【資料】 資料3

令和8年度各種事業について

【資料】 資料4

雑誌スポンサー制度について

【資料】 資料5

山城図書館休館について

【資料】 資料6

- ：資料4の令和8年度各種事業案の中で、加茂図書館の「寄贈本で登録できなかった本のリサイクル」とあるが、年間で何冊くらいリサイクルに出しているのか。
- ：今日は加茂図書館の担当者が欠席しているので詳しい数はわからないが、見た感じだとブックトラック半分くらいはあるので、150～200冊くらいだと思う。
- ：中央図書館ではなく、加茂図書館でリサイクルをするのはどうしてなのか。
- ：現在中央図書館では本のリサイクルはしていない。
そのことについては他館とも話をし、あまりにも好評だったら中央図書館でも実施したいと考えている。
また、担当の司書とも相談したいと思う。
- ：私の記憶では、以前、図書館協議会で、「本を寄贈することはやめてほしい」と言っていたと思うのだが、寄贈は構わないのか。
- ：基本的には受けていない。
- ：そう理解している。
では、この寄贈本というのはどういう寄贈本なのか。
- ：断っても置いて帰られる人、もしくは郵送で送ってくるものである。他には、著者の方や出版社の方から寄贈すると送られてくるものになる。
扱いはどのようになっても大丈夫である、というふうに送られてくる本もある。
- ：基本的には、「渡したいのだが」という申し出は断っているのか。
- ：断っている。
- ：資料4の各種事業の「資料展示のテーマ」の中で、加茂図書館の「子ども図書館オススメ本」というものがあるが、実際に見たのは、ボードに小さい紙に「私はこの本が好きです」という本の名前と少しだけ感想を書いて、張り出されていたことがある。
それのことなのか。
- ：おそらくそれに関連した本を展示していたと思う。
- ：先ほど話の出ていた「私のおすすめ本」というコーナーができなくても、あれもなかなかいい試みだと思う。
- ：加茂図書館と山城図書館は、おすすめ本は常時本屋みたいに、「図書館員からのおすすめ本」みたいな形でポップを貼ってアピールをしている。
また、山城図書館では、中学生の職場体験の際に、中学生におすすめ本を書いていただいて、ポップと一緒に少しの間だが、本の展示をしている。
- ：以前、加茂図書館だったと思うが、本のタイトルがわからないように紙で包んであって、2～3行文章が書いてあって、どういう内容かよ

	<p>くわからないが、とにかく一か八かで借りて帰るという試みがあった。</p> <p>○：確か読書週間にあったと思う。</p> <p>→：山城図書館も1回だけ実施した。</p> <p>○：加茂図書館では大人、子供に分けて実施していたと思う。</p> <p>→：加茂図書館は確か、最初の一文を記載して、何かに包んでといたと思う。</p> <p>○：確かにそうだった。</p> <p>ただ、借りて帰ったら、「普段はこの作家さんの本は借りないな」というものがあり、なかなか良かったと思う。</p> <p>○：話は変わるのだが、資料5の雑誌スポンサー募集はいつごろから実施しているのか。</p> <p>→：15年ほど前から実施している。</p> <p>昨今雑誌の値段が高くなって、どの図書館も予算が削減される中で、京都府下でも雑誌スポンサー制度を始める図書館が増えている。</p> <p>本市でも、新年の観光商工課の立地企業へ挨拶回りの際、資料を配布し、お願いさせていただいたところである。</p> <p>少しでもスポンサー企業が増えればと考えている。</p> <p>○：少しでも増えればいいと思う。</p> <p>⇒：スポンサー募集の広告等が出て、なかなか手をあげてくれないので、こっちから出向いてお願いをするということ、令和8年度は力を入れていこうかと思っている。</p> <p>少しでもスポンサーがついていただいたら、その分新しい雑誌も購入できる。</p> <p>○：スポンサーについては審査のようなものはあるのか。</p> <p>→：審査という形で、決裁を廻している。</p> <p>広告内容について「木津川市有料広告掲載要綱」というものがあり、それに基づき審査している。</p> <p>企業が納税をしているのか、税務課に照会をかけている。</p> <p>⇒：学研企画課が広告担当部署なので、決裁と同時に応募してきた企業が基準に合致しているか確認をしてもらい、最終的に承認している。</p> <p>基本は広告に載っているのは企業名と、あとはイラストを入れるくらいであり、まず審査に落ちることはない。</p> <p>○：先日京都新聞に掲載されていた自習室の件だが、どこの図書館にも自習室はあるものだと思っていた。</p> <p>⇒：最近自習席を設置する図書館が増えてきた。</p> <p>○：新聞に掲載されたことで何か反響はあったのか。</p> <p>⇒：特段反響はない。</p> <p>→：自習席も色々とパターンがあり、例えば木津川市では図書カードを持っていただいている方であれば、ご利用いただけるということで、なおかつ図書館に関係のない持ち込んだ本も利用しているのだが、昨日、京都府南部の図書館の会議に出席していたのだが、図書館の中には図書カードがなくても自習室の貸出しをしている図書館もあれば、図書カードは必要だけれども資料の持ち込みは不可という図書館があったりとか、図書館によって温度差があるのが現状である。</p> <p>ただ自習室というものの自体は、館長から説明があったように取り組みが広がってきて、つい最近だと精華町立図書館が今年に入ってから自習席を作ったりして、広がりがある。</p> <p>ただ取り組みの内容については各市町村で差があるのかな、と感じて</p>
--	--

いる。

- ：雑誌スポンサー制度はいいなと思っており、ぜひ勧めたいと思うし、声かけできる所はしたいな、と思っている。雑誌のことでスポンサー制度とは関係ないかもしれないが、雑誌で中央と加茂と山城と、去年も言ったと思うが、中央はたくさんあるのは仕方がないと思うのだが、ローテーションすることはできないのかなと感じている。

例えば今年度、2026年度は「アクアライフ」は加茂や山城にはないけれど、来年になったら加茂、その次は山城というふうにしていけないものだろうか。

図書館に行って見たいけど、ずっとない雑誌もあるわけである。それなら中央に行ったらいいだけの話なのだが、高齢化で足がないという人もいると思うので、雑誌の入れ替えについて検討の余地はないのか。

- ：今のところ考えてはいるが、やり方次第では面白い企画にはなるかと思う。

どこまでというのもあるので、まずは何冊かと、最新号1冊と50冊ほど在庫があるので、それ自体を持ち運ぶのか、ローテーションするのか、1年分くらいに限ってするのか、そのあたりいい案があれば。

- ：1年分でいいと思う。図書館に行って、いつも同じ雑誌ばかりで、ただ、雑誌一覧の資料を見たら、3館で140数冊雑誌の種類がある。

加茂図書館はそのうち90冊くらいしかない。

- ：加茂図書館は置き場所の関係もあり、一番少ないと思う。

- ：ふらっと訪ねて雑誌見たいな、という人もいると思う。

取り寄せ予約すればいいのだが、そうしない人も多い。

- ：令和6年度の年報では、中央は121冊、加茂は73冊、山城は89冊雑誌がある。

面白い展示の仕方かもしれない。

今後検討する。

- ：願います。

- ：雑誌の件だが、学生の方の来館者が少ないとの話だったが、例えば雑誌で学生の子たちが興味を持つようなもの、受験雑誌とかは置くことはできないのか。

- ：受験雑誌に限らず、若者向けの雑誌は置くようにしている。

- ：今後ともお願いしたい。

- ：資料2の当初予算の状況についてだが、②の管理費の「その他」の部分の中央図書館の消耗品費の予算が大きく落ちているが、どうしてなのか。

- ⇒：これは、「消耗品等」になっているのだが、以前は「その他」の中に委託料が入っていたので、その分がそのまま減っている。

その委託料について、令和8年度4月から包括管理業務の方に移行する関係で、その分の金額がかなり減っている状況になっている。

- ：わかった

- ◎：資料2の当初予算の図書購入費が3館合計で1,285万円であるが、個人の方で「子どもたちにいい本買ってあげて」とかいう寄付の申出

等はないのか。

→：昔は定期的にあったが、最近はない。

昔は100万円単位で、200万円の時もあった。

それが10年ほど続いたかと思う。

◎：そういったものは受け入れるのか。

→：申出があったら受け入れる。

⇒：寄付をもらったら、補正予算というかたちで、その分だけ計上する。
200万円なら200万円の歳入受入を予算化して、最終的には歳出の図書購入費も同じように200万円計上する形になる。

→：最近定期的に、障がい者向けの本をくださる方もいる。

そういうジャンルは少ないからという理由からである。

◎：そういう市民の方がおられるということは理解できた。

◎：資料4の各種事業について他に意見はないか。

○：中央図書館では赤ちゃんのおしゃべりタイムということをしているのだが、加茂や山城では実施しないのか。

→：特別に「赤ちゃんを対象に」と銘打って行っているお話会というのは今のところ加茂、山城はない。

加茂、山城だと図書館内に部屋がないので、そのこともあろうかと思う。

○：中央図書館までなかなか足を運べないという方もいる。

アスピア山城には部屋があるので、そういう企画があってもいいのかなと感じた。

→：今後検討させてもらう。

○：中央図書館は朗読サークルこだまが活動しているが、加茂図書館と山城図書館でも、それぞれ同じような朗読をしてくださる団体の方がおられるので、実施可能だと思う。

○：山城図書館が休館にあるが、貸出等もできなくなるのか。

→：休館中はできない。

○：通常通り、2週間の貸出し期限で返却日が休館期間のぎりぎりの日だったら、この期間に返却日がかかることはないのか。

→：返却期限を延ばす。

休館日の2週間前から、貸出期間を4週間というかたちで延長させていただく。

○：その情報はどこかに掲示してもらえるのか。

→：この情報は、中央図書館と加茂図書館にも掲示する。

山城図書館にも内容を変えたものを掲示している。

休館期間には返却日が重ならないようにさせていただく。

③ その他

次回の協議会について

会議結果要旨のとおり。

5 副会長あいさつ

会議結果要旨のとおり。

6 閉会

以上

その他特記事項	なし
---------	----